

保守系無所属
代表 山本 幸廣 様

保守系無所属
管外行政視察復命書

視察期日： R6.3.24 (日) ~ R6.3.26 (火)

視察先：岐阜県 大垣市
滋賀県 近江八幡市

参加者： 議員 山本 幸廣



議員 堀口 晃



議員 中山 輪扶哉



「保守系無所属の会」 行政視察所見

議員名【 山本 幸廣 】

視 察 日：令和6年03月25日（月）

視 察 先：岐阜名古屋貨物運輸（株）

調査項目：「2024年問題について」

1. 物流・運送業界をとりまく「2024年問題」

◆「物流の2024年問題」がもたらす荷主への影響

2024年4月以降、自動車運送業務の年間時間外労働時間の上限が960時間に制限されることによる荷主、またはドライバーへの影響が今後の物流にどのような影響が及ぶのか。日本の物流の中心である岐阜県にある「岐阜名古屋貨物運輸株」中堅企業の率直な話を聞くことができた。

(1) 物流費の値上がり

時間外上限規制により、ドライバーの総稼働時間は減少するため、例えば、1日13時間働いていたドライバーの稼働が11時間（▲2時間/日）になると、単純計算で輸送力は約15%減少することになる。結果、国内全体の輸送力が減少し、需給バランスが崩れることから、物流費の値上がりが見込まれる。

また、時間外労働の減少＝ドライバーの収入減となった場合、人材が他社・他業界に流出する可能性があるため、物流会社はドライバーの給与をベースアップする必要があるとのこと。結果として荷主企業に対して運賃改定する動きに繋がるが、企業に対し値上げを要求できない状況も現状としてはあるとのことであった。

(2) 輸送距離の制限

トラックドライバーの労働時間・拘束時間の制限に伴い、現状は問題無く輸送できている長距離輸送が対応できなくなる可能性がある。

一定の距離以上の輸送の場合、コンプライアンスを理由に物流会社から輸送を辞退され、商品を運ぶことができないという事態にもなりかねない。この事は、売り上げに直結することであり困惑しているが、今のところどのように対応していけばよいのか検討しているとのことである。

(3) 集荷時間の前倒し

時間外労働の発生を避けるため、物流会社は集荷時間を現状より前倒しすることが考えられる。荷主企業は商品をより早く出荷できるようタイムスケジュールの見直しを迫られることになる。

(4) 今後の課題

民間でできる事、行政ができる事。共に日本の物流を確保し、国民の生活に支障をきたすことのないような仕組みづくりが必要である。

- ①高速道路料金の割引（緑ナンバーに限る）50%割引
- ②燃料高騰に対応した施策（補助金制度）
- ③若手ドライバーが働きやすい環境づくり

以上の事を今回の視察で学ばせていただいた。やはり現場の声を聴き、改めて食糧基地八代の2024年問題の解決に議会として早急に取り組んでいきたい。

「保守系無所属の会」 行政視察所見

議員名【 山本 幸廣 】

視 察 日：令和6年03月25日(月)

視 察 先：岐阜県大垣市

調査項目：「かわまちづくりについて」

1. 清流球磨川・八代城址のお堀を活用したまちづくり ができないか

◆「水の都おおがき」

令和5年4月7日(金)にスタートした、水の都おおがきクラウドファンディング～ウォークアブルなまちづくりイベント「かわまちテラス」で、水都大垣を明るく照らしたい！～が、7月5日(水)をもって終了。

134人の方からご支援いただき、目標額(1,000,000円)を大きく上回る1,567,000円のご寄附があったそうである。

水都大垣の地域資源を生かし、水を身近に感じる空間デザインや水辺の活動を一体的にブランディングし、「水都大垣」を感じるまちづくりを一層推進する「水都大垣再生プロジェクト」を令和5年4月から開始している。

このプロジェクトの一環として、市民や訪れた方に水辺の景観の美しさや居心地の良さを感じていただくとともに、水辺で賑わいの場を創出するイベント「かわまちテラス」を官民連携で開催している。

八代市も八代城址のお堀を活かしたまちづくりができると考える。今後、クラウドファンディングも視野に入れた取組を行っていきたい。

「保守系無所属の会」 行政視察所見

議員名【 山本 幸廣 】

視 察 日：令和 6 年 03 月 26 日（火）

視 察 先：滋賀県近江八幡市

調査項目：「VR 安土城について」

1.八代城天守閣の復元で市民のシンボルをつくる

◆「VR 安土城について」

安土城は、織田信長が約6年の歳月をかけて築城したお城である。

幻の城『安土城』とその城下町を、各種史料、発掘調査成果及び研究成果を基に、最新の VR(バーチャルリアリティ技術)を用いて、復元、上映している。

滋賀県では、「幻の安土城」復元プロジェクトを構成する三つの柱の一つとして、謎に包まれた安土城の実像を目に見える形に復元する、安土城の見える化を進めている。

令和 8 年の安土城築城 450 年を目標に、見える化の実現に取り組んでいるが、令和 3 年度、見える化の全体計画をまとめた『デジタル技術を活用した「幻の安土城」見える化基本計画』を策定し、「現地ならではの、本物が持つ迫力と魅力を「見える化」を通してみんな理解し、共有の輪を広げ安土城の価値を未来へ継承していく。」このことを基本理念に、調査研究にもとづいた復元 CG を、AR や VR などの最新デジタル技術を活用して提供している。八代にも立派な城跡がある。今後、八代城天守閣の復元を含め様々な形で検討する必要がある。熊本第二の都市となるようなシンボルをつくり、観光の目玉としなければならない。

「保守系無所属の会」 行政視察所見

議員名【 堀口 晃 】

視 察 日：令和6年03月25日（月）

視 察 先：岐阜名古屋貨物運輸（株）

調査項目：「2024年問題について」

1.物流・運送業界をとりまく「2024年問題」

◆「2024年問題」の留意点

2024年4月からドライバーの時間外労働の960時間上限規制と改正改善基準告示が適用され、労働時間が短くなることで輸送能力が不足し、「物が運べなくなる」可能性が懸念されている。

国の「持続可能な物流の実現に向けた検討会」では、2024年問題に対して、何も対策を行わなかった場合、営業トラックの輸送能力が、2024年には14.2%不足。2030年には34.1%不足する可能性を試算している。

このことを踏まえ、問題点として、トラック業者においては、今までどおりの輸送ができなくなる。例えば長距離輸送などができなくなる。ドライバーの増員が必要となるが、人材が確保できない等の問題がある。又、荷主にとっては、必要な時に必要なものが届かない、輸送を断られる可能性がある。更に、一般消費者にとっては、当日、翌日配達 of 宅配サービス他受けられないかもしれない。また、農産物や水産品、青果物などの新鮮なものが手に入らなくなる可能性がある。といった問題を、日本の物流の中心である岐阜県にある「岐阜名古屋貨物運輸(株)」中堅企業の率直な話を聞くこととした。

(1) 貴社の事業内容及び概要

トラックは、35台保有しており、30名前後の従業員が従事している。主に食品の配送業務を行っており、中距離が主流である。

ドライバーについては、若年層は入社が厳しい状況で、高齢化が進んでいる。4時間運航して30分の休憩を必ず取らなければならない。

1日の拘束時間は、13時間である。若いドライバーの確保が難しい現状である。

(2) ドライバー不足への対応

第一に、ドライバーの給与を値上げした。しかし、いろいろ引かれるものが多く、ドライバーにとって給与が上がった実感はなさそうである。ドライバーの募集を行うがなかなか来てくれない。

運送業者間での配送の分担を試みているが、難しい現状である。

(3) 今後の課題や問題点

物価高騰による燃料費の高騰がかなり響いている。国の支援が必要である。

時間短縮のため高速道路を利用しているが、平日の常務のため割引等が全くない状況である。

緑ナンバーのトラックについては、半額程度に割引制度があると、労働時間の短縮と、輸送コストのカットができる。また、ドライバーの給与も上げられるメリットがある。

依頼主に対して賃金の上乗せを申し出ても、他社と比較され、値上げしていただけない現状がある。

今後の課題として、消費者にもお願いしたい事は、再配達を減らす配慮をしていただきたい。また、まとめ買いをしていただき、運送回数の削減にご協力いただく事で、持続可能な物流の実現につながっていくと思う。

「保守系無所属の会」 行政視察所見

議員名【 堀口 晃 】

視 察 日：令和6年03月25日（月）

視 察 先：岐阜県大垣市

調査項目：「かわまちづくりについて」

1.清流球磨川・八代城址のお堀を活用したまちづくり ができないか

◆「水の都おおがき」

水の都と言われるだけあって、大垣市には、良質の地下水が自噴している井戸が数多くある。2mも掘削すれば水があふれてくるほど水資源が豊富な都市である。

その水や、水路を利用した様々な観光整備がなされており、16万人市民の憩いの場ともなっている。

(1) 事業の概要

・事業実施に経緯

水門川を利用し、大垣城が天文4年（1535年）に築城されその後、慶長5年（1600年）の関ヶ原の戦いでは、西軍の石田三成が大垣城に入城し西軍の本拠地とした経緯がある。当時は内堀、外堀とあり、その外堀を取り囲むかのようにもう一つのお堀あり、難攻不落の城構えであったという。古くから市民に親しまれてきた「水門川」を利用したいこいの広場や、観光スポットを構築する事業を策定した。

(2) 取り組み内容

・施設整備と活用状況

「令和5年度かわまち大賞」を受賞。

全国各地の河川で進められている「かわまちづくり」の中から模範となる先進的な取り組みを国土交通省が表彰するもの。登録されている全国264か世の中からの大賞であった。

これらの事業を実施するにあたり、国の支援制度を活用し、庁内に「水都大垣再生プロジェクト」を立ち上げ、住民の皆様と作り上げてきた。

「水の都おおがき舟下り」3月23日～4月7日まで桜が咲きほこる水門川を約30分間かけて舟で散策するイベント。石垣に囲まれた風情あふれる中を竿1本で操る舟旅イベントである。

「かわまちテラス」丸の内公園及び四季の広場一帯をイベントスペースとして市民や観光客が憩えるスペースを提供している。また、音楽イベントなども企画し夜の桜ライトアップは見事なものであるとお聞きした。多くの人で賑わうスペースとなっている。

「水の都おおがき たらい舟」4月27日～5月6日までの期間、奥の細道で知られる「松尾芭蕉」のむすびの地を訪ねる歴史探訪を兼ねた「たらい舟」をイベントとして開催している。

(3) 事業の成果・効果

・市民の声

市民の皆様に広く浸透し、多くの市民が休日を問わず出かけている。観光客にも好評であるとの声も多く聞かれる。

(4) 今後の課題や問題点

市民の皆様の献身的なボランティア活動で持続可能なイベント等が今後も続けることができるようなシステム、環境づくりをしていかなければならないと考えている。

「保守系無所属の会」 行政視察所見

議員名【 堀口 晃 】

視 察 日：令和6年03月26日（火）

視 察 先：滋賀県近江八幡市

調査項目：「VR 安土城について」

1.八代城天守閣の復元で市民のシンボルをつくる

◆「VR 安土城について」

(1) 事業の概要

・事業実施の経緯

安土城は、1579年に織田信長の命によって建築された世界で初めての木造高層建築といわれ、高さ46メートルの壮大で絢爛豪華な建造物であった。

わが国最初の本格的な天主の建築は、この安土城が始まりとされ、歴史上に名を残す名城跡です。

何十年も前から復元の話があったが、国の特別史跡に指定されたことで、特別史跡を触ることが許されず、図面が消失している以上、空想でしかないということから、安土城跡に復元することが叶わない状況である。

そこで、様々な文献を調査しバーチャルリアリティでの復元を試みる事とした。

(2) 取組内容

・施設（設備）整備と活用状況（来場者推移）

●VR 安土城とは

発掘調査や研究資料に基づき、安土山に建てられた安土城と家臣の屋敷、城下町をCGで再現したシステムで、ショートムービー版とマニュアル版の2つから構成されます。

●VR（バーチャルリアリティ）とは

コンピューターグラフィックや音響効果を組み合わせ、人口的に現実感を作り出す技術。対象者の操作により、ある程度自由に仮想空間を移動することが可能です。

(3) 事業の成果・効果

NHKでも放送され、誰も見たことのない安土城がリアルな姿で再現されたことにより、その効果は絶大なものがあった。

(4) 今後の課題や問題点

集客へ繋げるためのPR活動を今後も幅広く行っていきたい。

別の土地を探し、モニュメント的な安土城を再現することは難しいかとの問いに、どの程度のお城を作るかが問題である。鉄筋コンクリートのお城では意味がない。

今後何年かかろうとも、安土城の復元に向けた取り組みを行っていく。

視察報告

中山 論扶哉

岐阜名古屋貨物運送（株）「運送の2024問題について」

民間の岐阜名古屋貨物運送（株）、辻社長様に運送の2024問題について視察を受け入れていただいた。トラック35台を保有されており、長距離～短距離の運送をされている。2024年問題は長距離が一番影響を受けており、労働時間を減らしたことで、お客さんへの対応に苦慮している。ドライバーの高齢化、賃金の上昇が喫緊の課題である。行き帰りの荷姿の問題も大きい。帰りに空車としないようにするのも大変である。中継をすることで問題解決となると思うが、大きい会社では可能だが、小さい会社ではそうもいかない。免許の問題もあり、普通免許で4トン車が乗れなくなった。この部分もドライバー不足になっているとのことだった。昔と違って高速道路を使うことが国の指導である。昔のドライバーさんは自由に働けることが1つの魅力だったが、GPSやタコメーター、休憩時間の指定など相当なストレスとなっているとのことであった。今後は外国人のドライバーさんも増えてくると思うが、現在は様子を見られているとのことであった。燃料の補助や時間制限の改善など、要望していく必要性を強く感じた。

大垣市「かわまちづくりについて」

大垣市は人口16万人で岐阜第2の都市と本市と似ている。水都大垣と言われ、工業都市とこのことである。急大垣城の堀を活用した水路が市内にあり、これを利用したかわまちづくりを実施され、かわまち大賞を受賞されることとなったとのことである。H28年からかわまちづくり事象を開始され、水門側の源流に湧水を引き、きれいになったとのことであった。市庁舎の建設とともに井戸を設け市役所周辺を整備、水辺で乾杯など、活発に事業に取り組んでおられる。令和5年度からは「水を見る・触れる機会」を増やし、水都を感じられる風景を創出、「水都大垣」としてのブランド化を図るプロジェクトを始動している。研修後に早速かわまちテラスや歩道をご案内いただき、見学・体験させていただいたが、大変素晴らしいものであった。本市も八代城跡において、まだまだ活用できると可能性を大いに感じた。八代城跡の古くなった遊歩道などの整備にたいへん参考となると思うので、関係する職員の皆さんにも見ていただき、本市の施策に反映していただきたいと思う。

近江八幡市「VR安土城について」

安土城跡は国宝とされたが、このため復元が大変困難となったとのことである。安土城を幻のまま終わらせたくないという復元に向け様々な施策をされており、この一環としてVRを活用し、気運の醸成やまちづくりに役立てていきたいとのことである。H22年度から検討・協議を開始、大学などと研究され、H25年にアプリをリリースされた。H26年には高精度VRやシアターを常設されており、テレビ放映や雑誌掲載につながっている。視聴者数とし

ては年間5万人程度であるが、映像が書籍やテレビで使用されることにより相乗効果を生み出している。課題としては飽きられないように更新していくことと、周遊の仕掛けづくりが必要であると認識されている。本事業の説明には、近江八幡市の議長様も加わっていただき、熱心に解説や意見交換をしていただいた。この場を借りて感謝したい。本市においても、八代城復元は超えるべきハードルは大変高いものであるが、「幻のままで終わらせたくない」と本議員も思う。比較的予算のかからないVRから取り組むことは可能である。八代城復元に向け、執行部の対応に期待したい。